

大学院リサイタルシリーズ②

## ～管と弦による秋の演奏会～

2021年10月2日(土) 15:00開演(14:40開場)

シルバーマウンテン1階

1. 間木平 美和 (フルート) pf. 松井 洋子

P. カミュ/シャンソンとバディネリ

P. ゴーベール/フルートソナタ

2. 濱 萌香 (ヴァイオリン) pf. 一宮 明代

A. ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53より第1、2楽章

A. ドヴォルザーク/マズルカ ホ短調 作品49

3. 石井 優菜 (フルート) pf. 松井 洋子

E. ボザ/アグレスティード 作品44

Ch-M. ヴィドール/組曲 作品34

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底・こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

# Program Note

## P.カミュ／シャンソンとバディネリ

ピエール・カミュはフランスの作曲家である。

シャンソンとバディネリは 1917 年にパリ音楽院学生の卒業試験のために作曲されたとされる。ゆったりとどこか切なさを感じるシャンソンと対照的な「戯れ」の意味を持つバディネリ 2つの楽章で構成されている。

## P. ゴーベール／フルートソナタ

フィリップ・ゴーベールはフランスのフルート奏者、作曲家、指揮者、教育者である。

11 歳からフランスで有名なフルート奏者の一人である P.タファネルのフルートレッスンを受けはじめた。フルートとピアノのために 3 つのソナタがありフルートレパートリーの重要な作品となっている。最初のソナタは 1917 年に作曲されているので第一次大戦中の作品となる。

この曲は師匠タファネルに献呈されていて、ゴーベールの作品で愛されている一つである。第一楽章「モデラート」は流れるようなピアノの16符音符からはじまる。

ゆったりと上昇する音楽から軽妙な音楽へと移り変わり静かに楽章が終わる。

第二楽章「レント」はどこか寂しげな美しい歌を思わせる曲である。

第三楽章「アレグロモデラート」は問いかけのような 6 つの短いフレーズで始まり、各フレーズはフェルマータで終わる。

ソナタ最後の 14 小節は、第一楽章の始まりを繰り返し消え入るように幕を閉じる。

## A. ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品 53

ドヴォルザークの室内楽作品を演奏したヨアヒムが彼の才能に注目し、ヴァイオリン協奏曲の作曲をすすめた。ドヴォルザークは故郷で作曲に着手し、1879 年 7 月から 9 月の 2 ヶ月間でこれを完成し、ベルリンのヨアヒムの元に原稿を携えて意見と批評を求めた。帰国後の 1880 年 5 月、意見を元に修正しヨアヒムの元にスコアが送られた。

### 第 1 楽章

独奏ヴァイオリンが奏でるメロディーは、ボヘミアの郷愁を感じさせるような民族性もあり、独特の哀切を感じる魅力的な旋律で溢れている。

楽曲は終盤に短いカデンツァを奏でた後、そのまま第 2 楽章に突入する。

## 第2楽章

ドラマティックな第1楽章とは対照的な美しくおだやかな楽章。独奏ヴァイオリンが静かに朗々と奏でる旋律が心に染み入るように奏でられる。

中間部では何度か、ややドラマティックな展開を見せるが、すぐに元の優美な姿に戻る。後半は旋律にさらに細かい音符と装飾を纏いながら美しく展開した後、美しさと静けさの中で終曲していく。

## A. ドヴォルザーク／マズルカ ホ短調 作品49

この曲の最初の方の音は、” Paňmáno ! sládek jde k nam ” というチェコの歌に似ていると言われ、リズムの点でもショパンのマズルカのような鋭さは見られない。《モラヴィア二重唱曲集》と《スラヴ舞曲集》第一集の好評に気をよくしたベルリンの音楽出版社ジムロックの求めに応じて書かれたものだけに《スラヴ舞曲集》の延長上にある作品でもある。

リズムカルな5小節からなる楽節の規則的な反復に特徴のある主楽想と、それとは対照的な温かい叙情性をたたえた旋律の美しい副主題に基づいて、 Rond風 の A-B-A-B-コード という部分形式に作られている。

## E. ボザ／アグレスティード

ウジェーヌ・ボザはフランスのニース生まれの作曲家。室内楽の作曲家としてよく知られている。

現代に属する作曲家ながら、特殊な奏法や技法を用いずに一般的な奏法で創作しているのが作風である。

管楽器向けのほとんどの曲はパリ音楽院の入試や卒業試験のための課題曲として作曲された。アグレスティードもパリ音楽院の卒業試験のために作曲されたものである。

アグレスティードとは「田園風な」の意。当時のフルート科教授ガストン・クリュネルに捧げられている。

全体にどこカラヴェルの「ダフニスとクロエ」の影響を感じさせる旋律が流れていて、カデンツではフルート無伴奏曲のイマージュと同じ旋律が使われている。

卒業試験に向けて作曲されただけあってフルートの演奏技術全般を問われる作品となっている。

## Ch-M. ヴィドール／組曲 作品 34

ヴィドール・シャルル＝マリーはフランスの作曲家、オルガン奏者、音楽理論家である。組曲作品 34 は 1898 年に作曲され同輩としてフルート科教授のポールタファネルに捧げられている。

第一曲「モデラート」はバロックのヴァイオリンソナタを思い起させるパターンを使用している。

ハーモニーやメロディーは 19 世紀の音楽ではあるがどこか古典的な佇まいを感じるのは、ヴィドール自身が古典への造詣が深かったからと言われている。

第二曲「スケルツォ」はフルートの軽快さと機敏さを活かされた曲となっている。

第三曲「ロマンス」はどこかメンデルスゾーンの「無言歌集」の影響を感じさせている。

第四曲「終曲」は転調を重ねながらハ長調で終わるやり方などフランクのヴァイオリンソナタをどこか感じさせるところがあり、大変力強く華やかに色彩豊かにフィナーレを迎える。

## Profile

### ●間木平 美和（フルート）

神奈川県出身。12歳よりフルートを始める。

洗足学園音楽大学管楽器コースを卒業。

現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科フルート専攻1年在学中。

これまでにフルートを菅井春恵、北村史織の各氏に師事。

室内楽を酒井秀明、山根公男、菅井春恵の各氏に師事。



### ●濱 萌香（ヴァイオリン）

長野県出身。3歳よりヴァイオリンを始める。

洗足学園音楽大学弦楽器コースにオーケストラ特待生として入学し卒業。

現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科ヴァイオリン専攻2年在学中。

これまでにヴァイオリンを青木千枝子、矢口十詩子、北原よし子、千葉純子、

ヴィオラを古川原裕仁、室内楽を川田知子、須田祥子の各氏に師事。



### ●石井 優菜（フルート）

東京都出身。12歳よりフルートを始める。

国立音楽大学附属高等学校を経て、

国立音楽大学演奏創作学科・弦管打楽器専修・フルート専攻卒業。

卒業演奏会、第48回フルートデビューリサイタルに出演。

現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科フルート専攻1年在学中。

これまでにフルートを菅井春恵、大友太郎、野原千代の各氏に師事。

